

鶏肉情勢

令和元年9月3日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目	内容
生	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会8月下旬実施)によると、7月の推計実績は、処理羽数57,790千羽(前年比103.9%)・処理重量174.08千トンを(同106.7%)と羽数・重量とも前年を大きく上回った。日曜日が1日少ない曜日周りの影響もあるが、特に重量は梅雨明けが平年より遅く気温も前年より低かったこともあり増体が良く、前月時点での計画(同103.4%)から大きく上振れした。地域別では北海道・東北地区が前年比105.4%(前回計画102.8%)、南九州地区が同107.7%(同103.6%)となった。なお、生鳥処分は廃棄合計2.96%(前年差△0.14%)となっている。 (2) 8月-10月計画では、8月が処理羽数(同102.3%)・処理重量(同103.4%)と出荷増の計画となっているが、猛暑の影響等もあり下振れする可能性もある。9月については、処理羽数(同103.8%)・処理重量(同104.5%)と、昨年の北海道地震さらに西日本の台風等による処理数減の反動もあり、大きく上回る計画で、10月も処理羽数(同101.9%)・処理重量(102.7%)ともに前年を上回る計画となっている。今後も台風、大雨等の影響も心配されるが、増産傾向に変わりなく当面は潤沢な供給が続く見通しとなっているため、秋の運動会・行楽需要やラグビーW杯の開催などイベントの増加に伴う消費の拡大が期待される。
	2. 輸入 (1) 財務省が8月29日に公表した貿易統計によると、7月の鶏肉(原料肉)輸入量は53.2千トン(前年比116.5%)で、日本食肉輸出入協会が予測(49.3千トン)を約4.0千トン上回った。国別ではブラジルが予測を約3.0千トン上回る39.7千トン(同123.7%)、タイも約0.7千トン上回る11.7千トン(同94.6%)となった。同協会(8月21日取り纏め)によると8月47.8千トン(同94.1%)・9月47.8千トン(同118.7%)と予測されており、「鶏肉の国内の動きは国産品、輸入品ともにあまり良くなく、中国向けの輸出が一段落したこと、ブラジル産の日本向けの相場には下げ傾向がみられる。タイ産も中国からの需要が落ち着きを見せており、日本向けのオファーも以前ほどの強気にはない。」とコメントしている。当面はやや増加傾向が見込まれるが、中国、東南アジアのアフリカ豚コレラの影響は今後出てくるものと考えられ、海外動向に注視が必要と思われる。 (2) 鶏肉調整品の7月輸入量は46.6千トン(前年比101.6%)と、前月より7.6千トン増加した。中国産が3.23千トン増加の18.76千トン(同97.2%)、タイ産も4.40千トン増加の27.50千トン(同104.2%)と30.0千トンに迫る勢い。2か月連続で前年を下回っていたが再び増加し、1-7月累計でも291.8千トン(同102.1%)となり、量販店やコンビニ等の惣菜向け需要は今後も伸びるため、この傾向は続くと考えられる。
産	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、6月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は3,730g(前年比101.2%)、金額は5,301円(同97.8%)となった。梅雨入りし気温も平年より低めに推移したこともあり、牛肉はステーキ等の高単価商品が不調も、「父の日」需要等もあり数量(同100.0%)は前年並みも金額(同96.0%)は下回った。豚肉は相場がやや高騰し、量販店での動きが鈍く数量(同98.5%)金額(同96.5%)とも下回った。鶏肉については量販店等の販戻回数が増加したことで購入頻度(同106.3%)・数量(105.2%)・金額(同103%)ともに上回った。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、7月は全店ベースで昨年比96.9%の売上と食関係の小売業は厳しい結果となった。部門別に見ても好調な部門はなく、畜産部門の売上高は1,005億円が全店ベースで前年をやや下回り(前年比99.2%)、既存店ベースでも下回った(同97.8%)。「前年より低い気温や日曜日が一回少ない曜日めぐりの影響を受け、総じて低迷した。国産牛肉は価格が高騰しているため、輸入牛の動きがよくなった。低温の影響かステーキ・焼肉用の動きが悪かった。国産豚肉は豚コレラの影響を受け相場が高騰し単価が上昇したものの、前年との気温差により冷しゃぶ用や生妻焼き用が伸びなかった。鶏肉は相場安で、販戻を強化して好調となった店舗が多い。ハムを中心に加工肉は不調とする店舗が多い。」と報告されている。惣菜部門のみがやや不調にとどまり、鶏肉関連でも新メニューの開発による需要拡大が望まれている。
需	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる6月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比102.4%の4.59千トンとなった。うち国内物は同106.9%の3.87千トンと前年を上回ったものの、その反面輸入物が同83.6%の0.73千トンと下回った。1-6月累計合計では依然として同102.2%と前年を上回っている。前月同様サラダチキン向けの需要が停滞きみとの報告もあるが、鶏肉加工品は7月以降もさらに需要が増加すると考えられ、国産むね肉価格が比較的低位で安定していることで国産比率が高まっており、さらに国産物での製造量増加を期待したい。
	1. 令和元年6月 (1) 推計期末在庫は国産30.57千トン(前年比104.5%・前月差△0.11千トン)、輸入品123.02千トン(同89.9%・同+0.93千トン)と合計で153.59千トン(同92.5%・同+0.81千トン)となった。生産量が3.9千トン減少し、輸入量も3.2千トン減少した。国産品の出荷量が生産量を上回ったため、国産品の在庫が微減した。輸入品は出荷量が4.5千トン減少の42.4千トンとなったため前月より微増も、前年比でみると89.9%の減少となった。
在	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(8月28日公表)では、7月は国内生産量が前月比で約3.0千トン減少するも輸入量が前月比で約6.0千トン増加、出荷量は前月並み(約177.0千トン)、その結果期末在庫は約156.6千トンと前月より増加する見込み。しかしながら前年比では、93.2%と下回る見通しとなっている。 (2) なお、8月は前月比で生産量が3.0千トン減少し、輸入量もブラジル中心に1.5千トン減少、かつ出荷量も3.0千トン減少することから期末在庫は国産・輸入品合計で1.5千トン増加の158.1千トン(前年比93.6%)と予測されている。9月は生産量が2.6千トン増加し、輸入量は前月並み、出荷量が4.6千トン減少することから、在庫は8.7千トン増加の166.8千トン(前年比102.5%)と大幅に上回る予測となっている。
	1. 8月動向 (1) 8月の平均相場は、もも肉535円/kg(前月比8円下げ)・むね肉225円/kg(同3円上げ)、正肉合計で760円/2kgと前月比5円下げで前年比でも58円の下げとなった。例年お盆期間約1週間休載期間があり月中で乱高下があるとこほぼ保合い圏内で推移した。もも肉は月初め529円で始まり、月末は539円で結果10円高となり次月に期待したい。むね肉も、加工向けに一定需要があり、月初222円・月末229円とじり高となった。
相	2. 9月見通し (1) 気象庁の1カ月予想では、気温は全国的に平年並みかやや高いとしている。学校給食も始まり、3連休が2度ありイベント等が増えるため需要増加による底上げが期待できるため、もも肉は月平均545円と予測する。むね肉についても、加工やサラダ向け等加工筋の引合いも堅調で若干上げ基調の月平均235円と予測する。

実績														
生産状況														
単位:千羽、千トン、%														
履歴	R元年7月推計実績		R元年8月計画		R元年9月計画		R元年10月計画							
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比						
入雛羽数	61,344	102.6%	65,077	100.0%	63,713	102.6%	70,304	101.8%						
処理羽数	57,790	103.9%	57,396	102.3%	56,452	103.8%	62,021	101.9%						
処理重量	174.1	106.7%	167.0	103.4%	165.5	104.5%	184.9	102.7%						
※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」														
輸入動向														
単位:千トン、%														
履歴	品名			鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
H31年4月	47.3	49.6	95.4	44.8	41.6	107.7	92.1	91.2	101.0	51.3	48.7	51.3	48.7	
R元年5月	46.6	47.1	98.8	41.0	42.3	97.1	87.6	89.4	98.0	53.2	46.8	53.2	46.8	
R元年6月	43.4	43.9	98.8	39.0	41.1	94.9	82.4	85.0	96.9	52.6	47.4	52.6	47.4	
R元年7月	53.2	45.7	116.5	46.6	45.9	101.6	99.8	91.6	109.0	53.3	46.7	53.3	46.7	
R元年累計	313.4	324.7	96.5	291.8	285.8	102.1	605.2	610.5	99.1	51.8	48.2	51.8	48.2	
※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞														
消費動向(2人以上の世帯)														
単位:グラム、円、%														
履歴	数量			金額			相場(年別・暦年)			単位:円				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	もも肉	むね肉	計		
H31年4月	1,365	1,378	99.1	1,271	1,281	99.2	H25年	583	246	829				
R元年5月	1,418	1,397	101.5	1,296	1,316	98.5	H26年	626	294	920				
R元年6月	1,437	1,366	105.2	1,268	1,231	103.0	H27年	639	336	975				
R元年平均	1,412	1,368	103.2	1,302	1,307	99.6	H28年	621	255	876				
※参考資料:総務省統計局HP														
在庫状況														
単位:千トン、%														
履歴	国産			輸入品			合計							
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比					
H31年3月	27.7	28.4	97.3	124.7	148.1	84.2	152.3	176.6	86.3					
H31年4月	30.7	25.9	118.6	122.4	144.8	84.5	153.2	170.7	89.7					
R元年5月	30.7	30.7	99.9	122.1	142.3	85.8	152.8	173.0	88.3					
R元年6月	30.6	29.3	104.5	123.0	136.8	89.9	153.6	166.0	92.5					
※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構														
相場(月別)														
単位:円、%														
履歴	品名			もも肉			むね肉			正肉合計				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R元年5月	583	585	99.7	227	282	80.5	810	867	93.4					
R元年6月	561	564	99.5	226	272	83.1	787	836	94.1					
R元年7月	543	548	99.1	222	265	83.8	765	813	94.1					
R元年8月	535	539	99.3	225	263	85.6	760	802	94.8					
R元年9月	(545)	550	99.1	(235)	265	88.7	(780)	815	95.7					
R元年10月	(565)	570	99.1	(235)	270	87.0	(800)	840	95.2					
R元年平均	594	602	98.7	237	287	82.6	831	889	93.5					
※( )は見通し ※1-8月平均														